

(2) 感染症・食中毒関係年表

年号	子どもをめぐる感染症の状況	日本の状況	行政	国外の状況	西暦
		コレラ初の流行			1822
明治 2				ロンドン コレラ 大流行(～1854)	1848
		3. 横浜 腸チフス発生	7.30 東京府 種痘奨励 の布告		1869
3		春 夏にかけ痘瘡, 風 疹流行	「種痘館規則」制 定		1870
		5.24 種痘実施			
4		横浜 天然痘流行			1871
6			「文部省」設置		1873
			4.4 東京府 狂犬病予 防のため, 野犬見 つけ次第駆殺		
			5. 文部省「小学校に 入学する者は種痘 をすることが条件」と通達		
			8. 「コレラ予防規則」 制定		
7		7. 東京 天然痘流行 (患者301人, う ち死者154人)	10.30 種痘規則公布, 種 痘強制施行		1874
9		9. 大阪 初のコレラ 流行(患者1,618 人, 死者1,227人)	5.18 「天然痘予防規則」 制定	8. コッホ(ドイツ) が炭そ菌の純粋培 養に成功, 伝染病 の基本的メカニズ ム解明	1876
10		8. 長崎 コレラ発生, 全国に広がり流行 (患者1万3,710 人, 死者7,976人)	8.27 「コレラ予防心得」 制定		1877
		9. コレラ流行により まじないはやる	12.28 内務省「便所, 下 水の清掃法」通達 (コレラ予防のため)		
11			3.26 「ジフテリア予防 心得」制定		1878
			12. 警察庁「氷製造人 並 発売人取締規 則」制定(コレラ 流行が氷の媒介に よることが多かつ たため)		
12		3.14 松山市 コレラ発 生, 全国に蔓延 コレラ患者隔離の ための病院開設相 次ぐ	7.14 「コレラ病伝染予 防規則」	パスツール(フラン ス)ウイルスに 感染したニワトリ にはその病原体に 免疫があることを 発見 ナイサー(ドイツ) 淋菌発見	1879
		8. 各地でコレラ患者 隔離反対の農民暴 動勃発(コレラー 揆)			

明治12		12 27 全国のコレラ患者 総数16万8,314人 うち死者10万 1,364人				
13		1 15 尾張地方 天然痘 流行	7 9 「伝染病予防規則」 制定によりコレラ、 チフス、赤痢、ジ フテリア、発疹チ フス、痘瘡の6種 を法定伝染病に指 定	12 漢セン（ノル ウェー）ライ菌発 見 パスツール 狂犬 病の予防に成功 エーベルト（ドイ ツ）チフス菌発見	1880	
14		1 東京 発疹性熱病 流行（はしかかぜ と呼ばれる） 発疹チフス患者 日本で初めて発見 東京 腸チフス流 行	5 京都市 各小学区 に種痘医を置く		1881	
15		5 29 東京 コレラ発生 全国に広がる（患 者5万1,618人、 死者3万3,784人）		フォラニーニ（イ タリア）肺結核治 療に人工気胸術を 創始 コッホ 結核菌発 見	1882	
16				4 コッホ コレラ菌 発見 クレープスとレフ ラー（ドイツ）ジ フテリア菌発見	1883	
17		11 神奈川 天然痘流 行	8 27 清でコレラ流行の ため、長崎、神戸、 横浜3港発又は経 由の船舶に「船舶 検査規則」実施 検疫本部・支部が 置かれる日本の検 疫制度の初め	8 清 アモイでコレ ラ流行	1884	
18	2 3月にかけて全国 で麻疹大流行	7 長崎、京都 コレ ラ流行 全国で患 者1万3,772人、 死者9,310人 秋冬 富山、横浜市、翌 年にかけて天然痘 流行 全国で赤痢・チフ ス大流行 赤痢患 者約5万人、腸チ フス患者約3万人	7 11 「種痘規則」制定	8 アメリカ シカゴ の水道 ミシガン 湖底の汚物で汚染 チフスで4万人死 亡 エシェリッヒ（ド イツ）大腸菌発見 パスツール 狂犬 病予防法完成	1885	
19		5 長崎 再びコレラ 流行 全国に広が る 全国で患者15 万5,923人、うち 死者10万8,405人 この年、伝染病大 流行 天然痘で約 2万人、腸チフス で約1万人死亡		ローゼンバッハ 破傷風菌発見	1886	

明治21		富山 腸チフス流行 患者1,126人, 死者281人		11.14	パリ パスツール研究所開設	1888
22		長崎市 飲料水の不良により赤痢流行 志賀潔 赤痢菌発見			北里柴三郎 コッホのもとで、破傷風菌の純粋培養に成功 インフルエンザ 世界的に流行	1889
23		2. 流行性感冒 全国で流行 初めてインフルエンザと紹介される 6. 長崎 コレラ発生 全国に広がる 患者4万6,019人, うち死者3万5,227人		8.	コッホ 結核の治療剤 ツベルクリンの創製発表	1890
24		4. 横浜市 天然痘発生	4.	12.4	ベーリングと北里柴三郎 ジフテリア, 破傷風の血清療法発見	1891
25		1. ~6月 東京, 神奈川中心に天然痘流行 11.30 大日本私立衛生会, 伝染病研究所設立(主任 北里柴三郎)		10.	バイフェル 流行性感冒の病原菌発見 細菌学者ハフキン(イギリス)コレラ菌の弱毒株を開発 インドで4万5,000人に用い死亡率70%低下	1892
26		全国で赤痢, 天然痘流行				1893
27		東京 チフス流行 8.25 北里柴三郎 ペスト菌発見 6.7 長崎 ペスト発生 7. 全国でコレラ流行 患者5万6,000人, 死者3万9,000人 11.13 北里柴三郎 ジフテリア患者に初の血清療法 翌年までに322人を治療 全国で赤痢大流行 患者15万5,000人, 死者3万8,094人 高専以上の学生の3.5%以上が結核患者と判明		春	香港 ペスト流行	1894
28		腸チフス流行 死者8,401人				1895
29	1. ~5月 東京 麻疹流行 患者5万8,771人, 死者884人	10. 5月~ 全国で赤痢流行 患者7万6,000人, 死者1万9,000人	3.29		「獣疫予防法公布」 狂犬病を獣疫に指定	1896

明治30	1 . ~ 6 月 全国で天然痘流行	4 . 1 「伝染病予防法」公布(コレラ, 赤痢, 腸チフス, 天然痘, 発疹チフス, ジフテリア, ペストに猩紅熱を追加し, 8 種)市町村に隔離病舎の設立を義務付ける国内防疫制度の完成	1897
	5 . 緒方正規 ペスト菌がネズミのノミで伝播することを発見		
	8 . 神奈川 赤痢流行 全国に広がる 患者 8 万 9 400 人 死者 2 万 2 300 人 北里柴三郎 コレラ血清療法を完成	9 28 文部省「学校伝染病, 及び消毒方法」を公布	
31	東京 ジフテリア 流行 患者 1 434 人, 死者 278 人		1898
32	8 . 赤痢流行 死者 2 万 3 763 人 全国の肺結核患者 6 万 6 409 人, 総死亡の 7 . 1%	2 . 14 「海港検疫法」公布 伝染病予防体制確立 3 . 31 「伝染病研究所」内務省の管轄に北里柴三郎 主任に就任 4 . 12 横浜, 神戸, 長崎 国ノ津に検疫所設置 11 . 内務省 ペスト流行につき, 家ネズミを駆除するよう通達	1899
33	10 . 神奈川 赤痢流行 第 1 回ライ実態調査によると, 患者 3 万 359 人		1900
34	1 . 長崎市 牛痘流行		台湾 ペスト流行
35	9 . 神奈川 赤痢流行 7 . 8 満州帰りの船客が長崎港にコレラ持ち込み, 長崎, 福岡, 岡上で流行	5 23 内務省 アジア各地でのコレラ流行により, 全国の主要港の検疫強化を指令	5 . 台湾, 香港などアジア各地でコレラ蔓延
	8 . 3 愛知 赤痢発生 死者 50 人		1902
	10 . 横浜市, 東京 ペスト発生		
36	5 . 12 横浜市 ペスト発生 患者 49 人, うち死者 41 人	内務省 トラコーマを急性伝染病と同様に扱うことを決める	1903
	5 25 長崎市 ペスト発生 患者隔離		
	7 . 京都市 コレラ発生 患者 216 人, うち死者 178 人 二木謙三 赤痢菌「駒込 A 菌, B 菌」発見		

明治37			2 .4 内務省「肺結核予防令」公布		1904
38	5 . 埼玉 麻疹流行	芝山五郎作 日本に腸チフスの他、パラチフスが存在することを証明			1905
39		4 . 第2回ライ実態調査 患者数2万3815人(第1回から大幅に減少)	11 30 内務省の伝染病研究所 落成	ボルデ、ジャングー(ベルギー)百日咳菌発見 ワッセルマン(ドイツ)梅毒の血清反応による診断法考案	1906
40		3 . 大阪 ペスト流行 5 30 北海道 狂犬病流行	3 .19 ライ予防に関する法律公布 ただしライ予防という法律名を用いず、法律第11号とされる	世界的にペスト流行 インドで死者120万人	1907
41		8 .9 横浜市 3回目のペスト流行 患者19人、死者18人 11 29 甲府市 コレラ発生 患者11人	6 25 「海港検疫法」第1次改正		1908
42	トラコーマ罹患率23% 秋田県雄勝郡山田小学校49%、堀切小学校54%	1 .10 京都 天然痘流行 近畿、東京に広がり、患者1万8000人、死者6000人 6 .12 コッホ来日 伝染病予防対策に関する世論を喚起	4 .14 「種痘法」公布 新生児の種痘を義務付ける	ニコル(フランス)発疹チフスがシラミにより伝染することを発見	1909
43		7 . 横浜市 第4回ペスト流行 近畿~関東地方 天然痘流行		長野 各市町村毎にトラコーマ検診を実施	1910
44	長崎市 小学校児童にトラコーマ検診 児童1万2043人中、4307人	9 .1 神奈川 腸チフス赤痢流行 10 .1 阪神地方 コレラ発生 加茂川流域の漁業、水泳、水の使用禁止 陸軍、新入営兵全員に腸チフス、パラチフスの予防接種実施	7 21 パラチフスを伝染病に追加	満州 ペスト大流行	1911
大正元	6 . 福島、岡山 教員に結核検診実施 この時初めてツベルクリン反応が用いられる	2 .3 栃木 住民にトラコーマ検診 8 . 上海で発生したコレラ、長崎に侵入 患者235人、うち死者139人	1 26 文部省「学校伝染病予防、及び消毒方法」の中で学校において注意すべき伝染病に「パラチフス」を追加		1912

大正元	7 .4 東京 戸塚小学校 全校児童にツベル クリン接種，父兄 に承諾を求めな かったため，問題 に						
2		9 . 横浜市 第5回ペ スト流行					1913
3	4 . 奈良，神奈川 学 校衛生主事が置か れる	1 29 長崎市 天然痘発 生 患者150人余 2 . 東京 発疹チフス 発生 各地で流行 死者1 ,176人 4 21 東京 真性ペスト 発生 死者41人 北海道 腸チフス バラチフス流行	10 .14 伝染病研究所「内 務省」 「文部 省」に移管				1914
4	9 .18 東京 コレラ流行 のため，小学校児 童の弁当を廃止し 授業時間繰り上げ る	1 .4 長崎市 腸チフス 発生 12 .11 北里柴三郎により 北里研究所開設 伝染病の研究と血 清製造開始	7 .10 東京，大阪，神戸 に肺結核療養所の 設置が決まる				1915
5		7 27 横浜入港の「ハワ イ丸」の乗客にコ レラ発生 全国に 広がる	9 22 コレラ流行のため 宮内省 半蔵門閉 鎖				1916
6		3 .1 長崎市 コレラ発 生 付近住民2万 3 485人の検便実 施 志賀潔 世界初 結核菌生ワクチン を製造 神戸市 天然痘発 生 患者5 ,121人， 死者935人	5 . 大阪に最初の公立 結核療養所設立 以後東京，名古屋 など17都市にも設 立				1917
7		10 . ス페인風邪大流 行 死者約15万人					1918
8			3 27 「結核予防法」「ト ラコーマ予防法」 公布 9 .1施行				1919
9		6 .10 長崎市 海上に停 泊中の発動機船に コレラ発生 患者 446人 7 . 岡山 腸チフス流 行 患者1 322人， 死者291人					1920
10						1 .6 ベルリンの子ども 48万5 ,000人の， 2万9 ,000人が結核	1921

大正11		9 .6 福岡 上海からコレラ侵入 全国に広がり，死者111人	4 .10 「家畜伝染病予防法」制定	1922
		12 . 大阪市 ペスト発生 全国に広がる患者118人，うち死者67人（これがペストの最後の流行となる）	4 .10 「伝染病予防法」一部改正（法定伝染病にパラチフス流行性脳脊髄膜炎を追加。コレラ，ペストの擬似患者に対する就学制限などにつき規定）	
12	4 .1 長崎市 学校衛生技師 2人 学校衛生助手11人を採用し，毎日各小学校児童のトラコーマ治療に当たらせる	10 .18 関東大震災後，この日までの伝染病（赤痢・チフス）患者3686人，死者624人		1923
13		3 .11 東京 震災後のバラック街に腸チフス発生 死者395人	9 .9 文部省「学校伝染病予防規定」制定	1924
14		4 . チフス患者1,572人に減少（前年度は1万192人） BCG菌株 フランスのパスツール研究所から日本に分与 志賀潔が持ち帰る		1925
昭和元	一年間に小学校の教員約500人が結核により死亡，児童への影響が問題化	4 . 東京 飴やあんによる食中毒発生		1926
2	4 .13 東京 はしか流行	7 . 東京 赤痢流行（患者60人）		1927
3			1 .4 警察庁「結核相談所」を開設	1928
			5 .4 文部省 学校衛生課を「体育課」と改名	
4		8 .13 大阪 コレラ流行（患者1,000人）	1 .24 文部省 児童の健康，精神上的の過重負担から小学校での入試準備教育，模擬試験などを禁ずるように府県に通達	1929
5		11 .20 岡山邑久町 日本初の「国立癩療養所」開設		1930
6		6 .6 結核予防策として「東京市立大塚健康相談所」開設		1931

昭和7		11 . 群馬草津町「国立癩療養所」開設 コレラ発生（患者4人，死者1人）			1932
8				インフルエンザウイルス発見	1933
9		11 .17 熊本市 天然痘流行			1934
10	風疹流行				1935
11	1 .7 神戸市 孤児院で赤痢発生	浜松市 大福餅サルモネラ中毒事件（患者2,201人，死者44人）	10 .20 第1回結核予防国民運動振興週間スタート	A型インフルエンザ流行	1936
	1 .10 川崎市 赤痢流行（患者447人，死者44人）で小学校がこの日から休校	結核患者増加，死因別死亡率で36年ぶり第1位に	11 . 精製痘苗による皮下種痘法実施。これにより，痘痕なくなる。		
	5 .10 静岡 運動会で出された大福餅が原因で食中毒発生				
	7 .12 東京 尋常小学校で結核のレントゲン検査開始				
12		大牟田市 赤痢大規模発生（患者2万人超）	4 .5 「結核予防法」改正	オーストラリアQ熱初報告	1937
		5 . 結核死亡率，東京世界1位			
13	関西地方 ポリオ流行（患者約3,000人）		4 .1 「国民健康保険法」公布 厚生省発足		1938
14		4 . 簡易保険健康相談所 全国40ヶ所に小児結核予防所の設置決定	4 .1 厚生省 乳幼児の結核予防を目的に一斉検診開始		1939
		5 .22 日本結核予防協会が解散，「結核予防会」設立			
15	横須賀市立沢山小学校が全国に先駆け，全校児童にツベルクリン注射を実施	3 .13 インド黒色病日本で初めて発生			1940
		9 .26 国民体力法施行規則により，ツベルクリン皮内反応検査を国民全員に実施			
16			全国5ヶ所の公立癩療養所（明治42年設立）が厚生省に移管され，「国立癩療養所」として発足		1941
17	1 .17 横浜市 全市103国民学校の生徒のレントゲン検査実施	9 .7 長崎市 デング熱流行			1942
	4 .1 国民学校卒業児童の希望者にBCG				

昭和18	8 .13 国民学校修了者でツ反陰性者のうち希望者のみに実施していたBCG接種を陰性・疑陽性者全員に接種に		全国1,300ヶ所に 健民修練所開設		1943
19		1 . インフルエンザ流行		結核の特効薬となる抗生物質ストレプトマイシンの発見 旧ソ・クリミア地方 クリミア・コンゴ出血熱発生	1944
20	11 . 阪大附属病院皮膚科の通院患者のうち7～8割が疥癬に。疥癬が国民病と呼ばれる。	12 . 天然痘，発疹チフスが全国に蔓延 梅毒大流行（～1950）	7 .15 厚生省 日本脳炎を伝染病予防法の適用される伝染病に指定 GHQ「ワクチンその他の供給に関する覚書」 GHQ「日本における発疹，チフス予防取締りに関する覚書」 GHQ「ジフテリア取締りに関する覚書」 発疹チフス注意患者届出規則公布，施行 GHQ「天然痘予防措置としての種痘に関する覚書」 GHQ「伝染病明細書にマラリア及び嗜眠性脳炎を追加するように指示」		1945
21	全国一斉にジフテリア予防接種実施	1 .6 大阪 発疹チフス発生 全国 天然痘，コレラ流行 引揚げ船にコレラ発生，浦賀港外にて海上隔離2ヶ月 東京 配給の小麦粉から食中毒（患者5,000人） 結核予防会 全国一斉に結核予防実践運動。街頭検診とBCG接種実施 天然痘大流行（患者1万8,000人，うち死者3,000人）			1946
22	2 .4 横浜市 集団疎開の学童に性病が広がる	性病患者40万人超す	3 .5 「伝染病届出規則」制定 引揚者の結核検診対策実施 GHQ「結核強化に関する覚書」を公表 保健所法全面改定 全国845ヶ所に保健所設置	7 . 世界保健機構（WHO）正式発足 WHO インフルエンザ対策に着手 アメリカ・ヨーロッパ イタリア 風邪流行（～1949） エジプト コレラ流行	1947
23	百日咳ワクチン禍（患者65人） 京都，島根 ジフテリア予防接種事故（患者606人，死者68人）	8 . 日本脳炎大流行（患者4,757人，死者2,620人） 12 . 神戸市 ビルマ産雑豆により中毒発生	4 .14 文部省「学校清潔法」通達 6 .30 「予防接種法」公布，BCG接種法制化 7 .15 「性病予防法」公布		1948

昭和24	2 .17 川崎市 市内6小学校で給食のミートシチューが原因で食中毒(患者4,300人)ジフテリア予防接種液の使用一切禁止	7 .8 東京都 狂犬病流行対策のため犬の放し飼い禁止 予防接種法により0~30歳を対象にBCG接種	10 . 「BCG新接種法」完成 日本脳炎撲滅対策医師は2時間以内に届け出 公衆衛生局「ツベルクリン反応検査心得」配布	北ヨーロッパ スカンジナビア型とリバプール型のインフルエンザ流行	1949
25	9 . 東京 都内の小学校で給食のソーセージによる集団食中毒(患者1,340人) 都是ソーセージの給食を中止 12 .27 長野 小学校にて結核集団発生	2 . インフルエンザ大流行(患者11万2,000人と発表) 大阪 シラスの腸炎ピブリオによる食中毒	4 .27 衆・参両院 結核予防対策強化についての決議 8 .26 「狂犬病予防法」公布,施行 11 .26 結核対策本部設置 12 . 文部省 全国の学校に「結核の予防について」通達		1950
26	5 .29 北海道 ニシンのいずしによる日本初のボツリヌス菌による中毒死事件発生 11 . 宮城 百日咳の予防接種から乳幼児65人が結核に感染	赤痢大流行(患者9万3,039人,死者1万4836人)	2 .11 厚生省 保健所の整備と結核病床1万7,000床の新設を発表 3 .31 「結核予防法」全面改正 10 .14 厚生省 BCG有害論争に対し,接種続行を表明 11 .18 結核予防審議会 BCGは有効無害であるとの意見書公表	5 .16 日本,WHOに正式加盟	1951
27	11 .21 東京 小学校で約600人のソーセージ原料による集団食中毒発生,名古屋,岐阜でも発生	2 . 武田薬品 インフルエンザワクチンの生産を開始 6 . 病原菌(コレラ,チフス,狂犬病,赤痢)の実験体になるという学生アルバイト登場	1 .18 厚生省 BCG有害論に対し,有効無害を再確認 11 .19 厚生省 結核死亡者激減,脳出血死激増と発表	12 . イギリス,ロンドン スモッグ発生肺炎などで4,000人の死者	1952
28	5 .7 全国で「いずみ熱」流行		5 .12 文部省 修学旅行中,遠足時における伝染病の感染,集団食中毒を防止するように小中学校に通達		1953
29	3 .23 横浜市 小学校で学童145人に集団猩紅熱発生	4 .27 国立癩研究所設置	3 .13 厚生省 結核実態調査で患者292万 6 .1 日本脳炎を法定伝染病に指定 ポリオ「伝染病予防法」にて届け出伝染病に指定		1954

昭和30	3 . 1 東京 都内の小学校で給食の脱脂粉乳により，集団食中毒発生	8 . 1 結核検診 全国民対象に この年の天然痘患者1人を最後に，日本の天然痘患者なくなる			1955
	9 . 16 岡山邑久郡 全国初の癩患者のための高校開校				
31	5 . 30 小児マヒ予防薬 ソークワクチンの使用開始	インフルエンザ大流行		バンコマイシン開発	1956
	6 . 3 学校医ら 虫歯，寄生虫，トラコーマ3大病撲滅運動5カ年計画を開始				
32	2 . 24 横浜市衛生局 入船小学校児童と家族に初のトラコーマ検診実施 大垣市 プールにより約1,000人に流行性角結膜炎発生	インフルエンザ大流行 国民の40～60%が罹患（学童だけで患者100万人，休校が都内だけで，2,588校）	3 . 25 厚生省 先天性股関節脱臼及び脊髄性小児マヒの特別対策実施 4 . 1 厚生省 結核の無料検診実施を決定 11 . 6 伝染病予防調査会 ソークワクチンの国内生産や小児マヒの法定伝染病指定を決める	アジア風邪 世界的な大流行	1957
33	8 . 21 小児マヒ患者全国で2,000人超す 9 . 19 横浜市，焼津市 子どもの間に集団赤痢発生 小学校のプールで咽頭結膜熱流行（～1959） 東京 アデノウイルス3型による咽頭結膜熱が流行		10 . 18 厚生省 小児マヒを指定伝染病に	手足口病 初の報告	1958
34	1 . 20 川崎市 小学校で集団赤痢発生（この日までに患者61人） 6 . 青森・八戸市 小児マヒ集団発生 8 . 5 東京・江東地区 小児マヒ集団発生	9 . 小児マヒ予防薬 ソークワクチンの国内量産始まる	3 . 28 「児童福祉法」改正 骨関節結核にかかっている児童に対する療育給付制度創設 10 . 19 文部省 学生・生徒の健康調査結果発表 寄生虫・結核は減少		1959
35	2 . 20 東京武蔵野日赤病院に日本初の小児マヒ治療センター完成 4 . 小児マヒワクチン集団投与開始 4 . 21 長崎 炭住街で小学生に赤痢発生，伝染経路は小学校の井戸				1960

昭和35	5 . 小児マヒ全国に集団発生 インフルエンザワクチン 学校保健事業として開始				
36	6 .21 小児マヒ患者 1月以来1,000人突破 7 .20 全国で1～4年生を対象に小児マヒ生ワクチン本格的投与開始 川崎病発見される		厚生省 ソ連・カナダから小児マヒ生ワクチン1,300万人分の緊急輸入決定	MRSA発見	1961
37	11 . 東京・世田谷区が都内で初めて小中学生にインフルエンザワクチンの予防接種開始	3 .7 東京 流感流行 (この日までに死者305,休校1,238)その後全国へ	4 .2 厚生省 インフルエンザワクチン勸奨接種(国家予算)	B台湾型インフルエンザ発生 台湾 コレラ流行	1962
38	9 .4 ジフテリア・百日咳混合ワクチン完成 長野,富山の小中学校で集団赤痢発生		7 .31 厚生省 台湾バナナ輸入禁止	米国 風疹流行	1963
39	1 . 三種混合ワクチンポリオワクチン投与開始 2 .8 国産小児マヒワクチン完成 3 .1 小児マヒワクチンを使用した健康優良児死亡	沖縄 風疹流行 (~1965)「先天性風疹症候群」の子ども400人生まれる			1964
40	12 . 東京,横浜市 インフルエンザワクチン接種による死亡事故発生				1965
41	長野,札幌市,東京都葛飾区の小中学校で集団赤痢				1966
42	4 . 傷跡を残さないスタンブ式のBCG接種始まる 12 . 3歳未満インフルエンザワクチン接種中止 12 . 千葉 混合ワクチン予防接種を受けた幼児20人が発熱,3人が重症	仙台市 腸チフス13人発症		西ドイツ,ユーゴスラビア マールブルグ病発生	1967
43	ジフテリア・百日咳・破傷風の三種混合ワクチン採用	京都 腸チフス11人発症		香港風邪 世界的な大流行	1968
44	6 .13 横浜市 工業用水誤配により幼稚園児に集団赤痢発生			ガーナ 急性出血性結膜炎大流行 西アフリカ ラッサ熱最初の感染者	1969

昭和45	種痘ワクチン接種で赤ちゃんが死亡する事故が続出 子どもの間に初めて手足口病が流行	ネパール旅行中犬にかまれた学生が帰国後、狂犬病発病で死亡			1970
46		群馬、栃木 腸チフス14人発症		南アフリカから天然痘根絶	1971
47		急性出血性結膜炎流行		B 香港型インフルエンザの流行	1972
48	都内小中学校 新型インフルエンザによる学級閉鎖1,133校				1973
49	百日咳菌体成分によるワクチン事故	シラミや疥癬が流行			1974
50	百日咳菌体成分によるワクチン事故。一時中止		1 30 厚生省 乳幼児事故多発のため三種混合ワクチン接種の一時中止を決定	バングラデッシュ アジア最後の天然痘患者	1975
8 .	東京・調布市 高校生がボツリヌス菌A型食中毒で死亡、日本初		2 .15 文部・厚生研究班 川崎病全国で急増と発表（患者約1万人）		
9 .18	種痘の定期接種廃止				
51	神奈川 校医検診の媒介により中学校生徒150人が急性出血性結膜炎に幼稚園児から高校生までインフルエンザワクチン義務接種	ラッサ熱騒動	3 .10 厚生省 ラッサ熱を指定伝染病に指定	アフリカ ザイール エボラ出血熱発病	1976
	全国的に風疹流行		6 . 「予防接種法」改正公布	米国 在郷軍人病発生	
52	中学生女子を対象に定期に風疹予防接種実施される 生後12ヶ月以上、おたふく風邪任意接種の形で予防接種開始	和歌山・有田市 コレラ流行（患者43人） Aソ連型インフルエンザ流行		ソ連風邪 世界的な流行 ソマリアで最後の天然痘患者（これが実質上世界最後の天然痘患者）	1977
53	5 . 子供たちに手足口病流行、学級閉鎖に踏み切る幼稚園も現れる	西日本 日本脳炎多発		米国 エイズの報告	1978
10 .1	1～6歳まで麻疹の予防接種義務化				
54	7 25 神奈川 小学校でカンピロバクターセズニ菌により発熱、下痢、腹痛を訴え休む児童、職員続出（患者約400人）			10 26 WHO アフリカでの「天然痘絶滅宣言」	1979

昭和55			9 .12 文部省 手足口病 風疹など18種を 「新伝染病」に指 定	5 .8 WHO 地球上か らの「天然痘根絶 宣言」	1980
56	2 .28 長野 小2ポリオ 患者から日本では 絶滅とされていた 型ウイルス検出 8 ~ 12 . 宮崎 急性出血 性結膜炎流行 沈降精製百日咳ワ クチン開発				1981
57	川崎病大流行 おたふく風邪流行	B型インフルエン ザ流行		中国, インド, タ イ, 韓国 日本脳 炎大流行 台湾 ポリオ 型 ウイルスの流行	1982
58		7 .5 血友病患者, エイ ズで死亡	7 .18 厚生省 エイズ実 態調査に研究班設 置	5 .24 米国 エイズを国 家最優先対策病に 指定	1983
59	3 .19 川崎市 小学校の 給食用鶏肉の大半 がサルモネラ菌に 汚染 西日本 麻疹流行 (患者12万人超え る) おたふく風邪再び 増加	5 . 徳島 紅斑熱リ ケッチア症初確認	6 .26 文体給133通知「学 校給食における衛 生管理の強化につ いて」	4 .23 米国 エイズウイ ルスを発見	1984
60		A香港型インフル エンザ流行	3 .22 厚生省 エイズ日 本人患者第一号確 認 厚生省 B型肝炎 ワクチン接種許可	南アフリカ クリ ミア・コンゴ出血 熱発生	1985
61				英国 狂牛病発生 1 .16 WHO エイズ患 者5大陸75カ国で 2万88人 フランス VRE 感染症確認 タイ エイズ爆発 的に増加 アフリカ, 南米 黄熱増加	1986
62	1 .10 りんご病大流行 インフルエンザ予 防接種は任意接種 へ アジア人日本語学 校生に結核患者多 発	8 .15 日本人初のラッサ 熱感染 青森 クリプトス ポリジウム原虫に よる集団下痢症 日本でエイズ患者 43 三重大附属病院で B型肝炎, 研修医 死亡 MRSA感染による 日本初の死者 医学研究者ら Q 熱発病	1 .17 厚生省 エイズ患 者国内初認定 9 .28 文体保39通知「当 面のインフルエン ザ予防接種の取扱 いについて」		1987
63	2 .13 エイズ汚染血液製 剤により小中学生 4人発病, 2人死 亡, 小中学校で初 8 .25 札幌市 結核の中 学校教師から生徒 50人集団感染		8 .17 文体学131通知「学 校給食における食 中毒発生の防止に ついて」		1988

平成元	4 . 福岡 学習塾の講師から中学生24人が結核に集団感染 9 . 20歳代の若者に伝染性単核症流行 MMR三種混合ワクチン接種開始	2 . 8 輸入物のチーズから日本で初めてリストラリア菌検出	1 . 12 厚生省 輸入血液製剤でエイズに感染した血友病患者の救済制度始まる 2 . 17 厚生省「エイズ予防法」施行	C型肝炎ウイルス発見	1989
2	10 20 埼玉 幼稚園でO157による集団下痢症				1990
3	4 . 都内の小中学生の間で麻疹流行(前年の約7倍) 6 . 5 青森 小中学校でいずみ熱集団発生 学校給食が感染源				1991
4	4 . 大阪 給食弁当からサルモネラ菌による集団食中毒発生(死者1人) 9 . 小中学生の胸部X線集団検診廃止	6 . 千葉「劇症型A型溶血連鎖球菌感染症」日本第一号の患者発見	6 . 23 文体学187通知「学校における環境衛生管理の徹底について」 10 . 14 文部省 高校生向けエイズパンフレット作成, 配布	米国「新興・再興感染症」提唱	1992
5		すし屋でA型肝炎(患者150人)	8 . 25 文部省 中学生向けエイズ教材作成 配布	WHO「結核非常事態宣言」 インド ベスト大流行 米国 クリプトスポリジウム症集団発生 WHO 南北アメリカ地域「ポリオ根絶宣言」	1993
6		8 . 東京 約30人がレジオネラ菌に感染 日本で同菌の集団感染は初 インフルエンザ大流行	10 . 「予防接種法」改正 予防接種が義務接種から任意接種へ	ルワンダ難民, 飢餓とコレラで死者続出 人食いバクテリアの出現 インド コレラ流行	1994
7	インフルエンザ大流行 風疹ワクチンの予防接種義務づけ廃止, 勧奨接種へ ブル熱の原因となるアデノウイルス7型が全国的に広がる	1 . HIV訴訟 川田龍平が原告で初めて名前を公表 7 . コレラ患者全国で急増(患者は前年の3倍) VRE感染者の初報告 レストランでA型肝炎発生	12 . 8 厚生省「らい予防法」廃止	WHO BCG複数回接種の有効性への疑問表明 アフリカ ザイール エボラ出血熱 新型クロイツフェルト・ヤコブ病	1995
8	4 . 小学5, 6年用保健教科書にエイズ関連記事掲載	3 . 29 HIV訴訟, 和解 全国でO157による食中毒あいつぐ	7 . 31 厚生省 O157伝染病に指定	英国 狂牛病騒ぎ	1996

平成8	7.13 大阪・堺市 33小学校でO157による集団食中毒 7.26 大阪、京都 O157の経口感染を懸念しプール閉鎖 11.19 堺市 学校給食再開	埼玉 日本初水道水を介してのクリプトポリジウムによる集団感染 インフルエンザにより高齢者170人死亡 日本初のヤコブ病患者	8.20 文体学168通知「腸管出血性大腸菌感染症の学校保健上の取り扱い等...」 8.28 文体学187通知「学校環境衛生の基準」の一部改正について 厚生省「腸管出血性大腸菌感染症の診断治療に関する研究班」を組織		
9		結核罹患率43年ぶり増加	国立予防衛生研究所を「国立感染症研究所」に変更・改組 「感染症予防・医療法」成立	韓国 BCG再接種中止 香港 新型インフルエンザAが発生	1997
10	3. 東京、神奈川、岩手 小中学校の給食のケーキによりサルモネラ菌中毒発生			第51回世界保健機構総会 ジンバブエ、パングラデッシュ、イエメンにマラリア大流行	1998
11	結核の集団感染全国であいつく（高知、東京、福岡、新潟、など） 小中学校でインフルエンザ急増（患者3万人）	4.10 「バリバリいか」で食中毒、サルモネラ菌検出 7.31 岐阜 ジフテリアで男性死亡	7.26 厚生省「結核緊急事態宣言」 11.26 厚生省「レジオネラ症防止指針」を全面的に改正 厚生省「感染症新法」制定	ニューヨーク、マレーシアで脳炎患者続出	1999
12	5. ポリオの予防接種原因で3歳児死亡 7. 関西3府県 給食牛乳 雪印離れ	4. 静岡の温泉 レジオネラ菌9人感染 6.29 雪印乳業 集団食中毒（発症者1万4,000人超える）	5. 厚生省 ポリオ接種中断指示	10.29 WHO 西太平洋地域での「ポリオ根絶宣言」 ウガンダ エボラ出血熱 香港 BCG再接種中止	2000
13	11. 東京 園児ら61人が感染性胃腸炎 麻疹大流行（患者27万人） 結核の集団感染あいつく	9. 千葉 日本初 狂牛病発生	厚生省は「厚生労働省」に文部省は「文部科学省」に改組 9.28 文部科学省調査 全国1万568校で給食の牛肉取りやめ	12. 米国 炭疽菌テロ	2001
14	1. 愛知・春日井市 校医結核発病・園児ら720人結核検査 3. BCG 小中学校は廃止、接種は乳児1回に	1.30 宮城 B型肝炎で4人死亡 3. C型肝炎感染問題（13万人） 7.22 E型肝炎で3人死亡 国内初の確認 8. 国内5例目となる狂牛病発生	日本医師会 麻疹対策強化要望へ「死者、日本突出」	2. WHO 昨年1年間570万人感染症で死亡（エイズ、結核、マラリア） 4. 韓国 ブタコレラ発生 8. 米国 西ナイルウイルス騒動	2002

(天野敬子・小川文子・野村和雄)